

大阪リビングラボ @大阪公立大学

~住民と創るスマートシティ~

大阪市立大学

商学部 公共経営学科

松永ゼミ

青木智哉 阪口将士 島本真優

2022
OSAKA

目次



現状分析

スマートシティ概要

中間報告の振り返り

ヒアリング

@スマートシティ戦略部



提案

新たな課題発見

参考事例

(デンマーク)

提案内容

(詳細・新規/独自性)



最後に

効果について

独自性について

私達の思い

大阪スマートシティの概要



スマートシティとは、
IoT、AIなどの先端技術を用いて都市問題の解決や都市の効率化に役立てようという取り組み

生活の質の向上

民間との協業

社会実装



この3点すべてに沿った提案をしたい！

中間報告の振り返り

副首都確立
↓
若者を大阪に
呼ぶことが大切

スマートシティ
政策の魅力を知
ることで、若者
が大阪に興味を
持つのでは？

若者への
情報発信の提案
を考える

大阪府庁
スマートシティ
戦略部に
現状を
ヒアリング

ヒアリング@スマートシティ戦略部

現在の状況

情報発信：

市民に向けて十分にできていない

情報抽出：

基本的に市役所・役場を通して抽出している

→高齢者の訪問がほとんどであるため
施策がほとんど高齢者向けになっている



若者の意見は、手段がなく、全く抽出できていない状況

真の課題である
「若者からの課題・意見抽出」
を達成するべく、
新大学大阪公立大学をハブとした
「大阪リビングラボ」
の創設を提案する

目次



現状分析

スマートシティ概要

中間報告の振り返り

ヒアリング

@スマートシティ戦略部



提案

新たな課題発見

参考事例

(デンマーク)

提案内容

(詳細・新規/独自性)



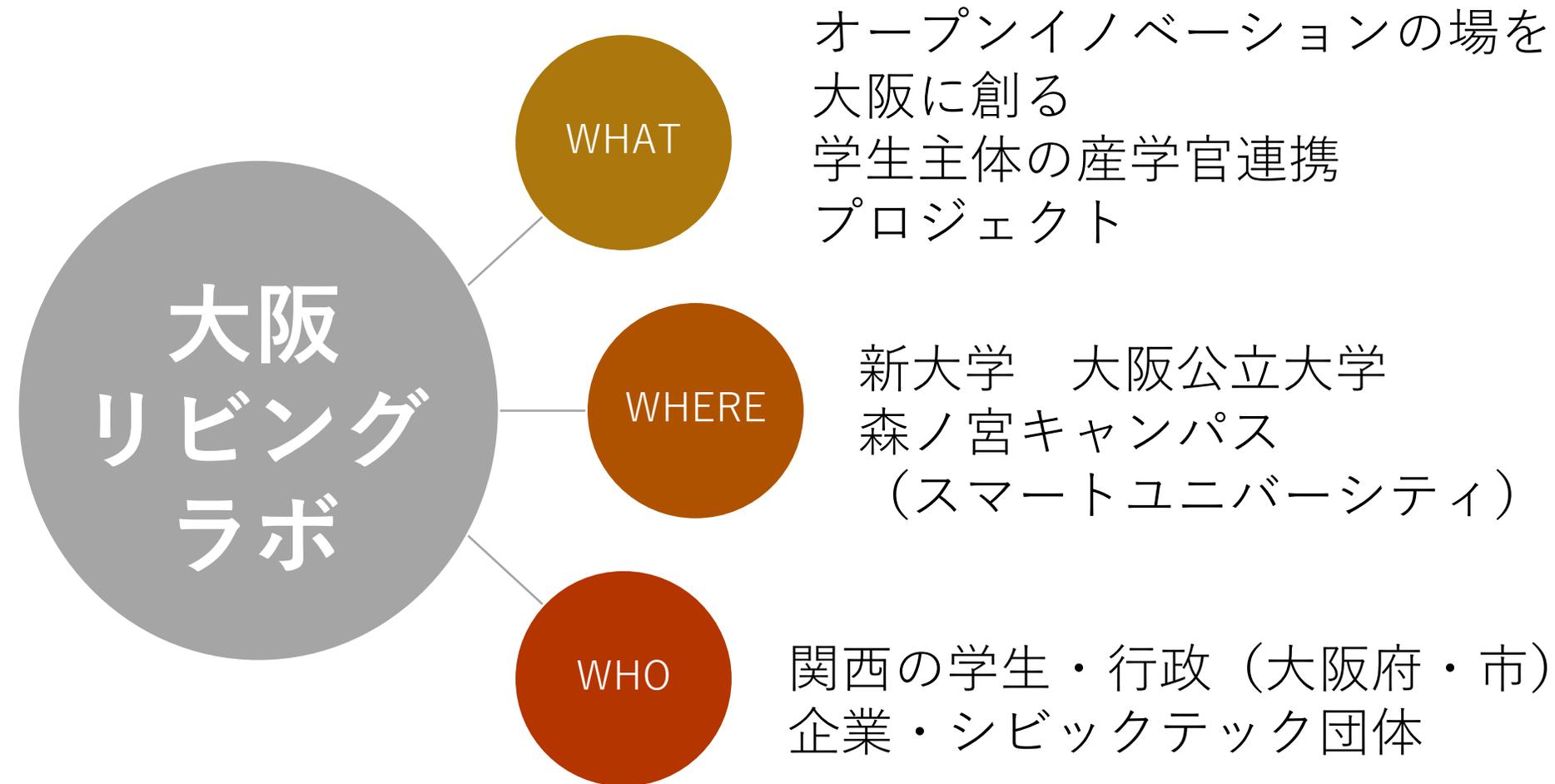
最後に

効果について

独自性について

私達の思い

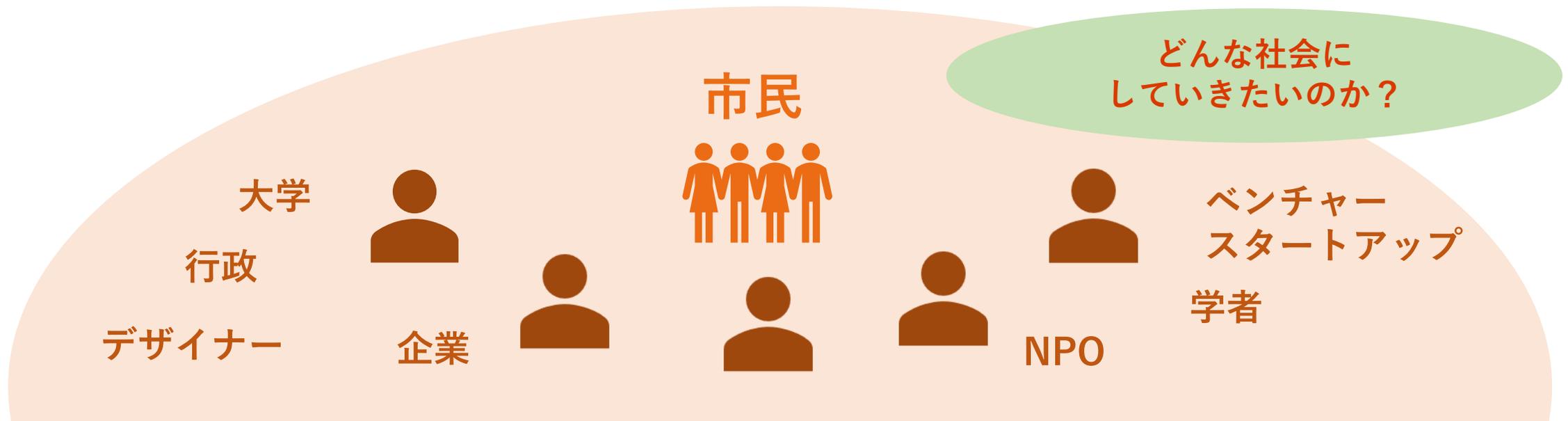
解決策



リビングラボ

多様なステークホルダーが集う日常生活の場で、最先端な知見やノウハウ技術を参加者から導入し、オープンイノベーション・ソーシャルイノベーションを通して、長期的視点で地域経済・社会の活性化を推進し、社会問題の解決を志向していくための仕組み

「当事者参加」 「考えが変わる場」 「みんなで一緒に未来を創る場」



参考事例

デンマーク コペンハーゲン

- ・ 国際経営開発研究所とシンガポール工科大学による
スマートシティインデックス
2019 **5位** (東京62位、大阪63位)
2020 **6位** (東京79位、大阪80位)
- ・ 国・自治体・企業だけでなく、大学・研究機関、市民、デザイナー、文化人類学者なども参画し、
市民が主役の「人間中心のアプローチ」が採用されている。
- ・ 最先端の研究に基づいた実証実験やイノベティブな都市計画を産官学連携で進める「**リビングラボ**」の方策が盛んになってきている。

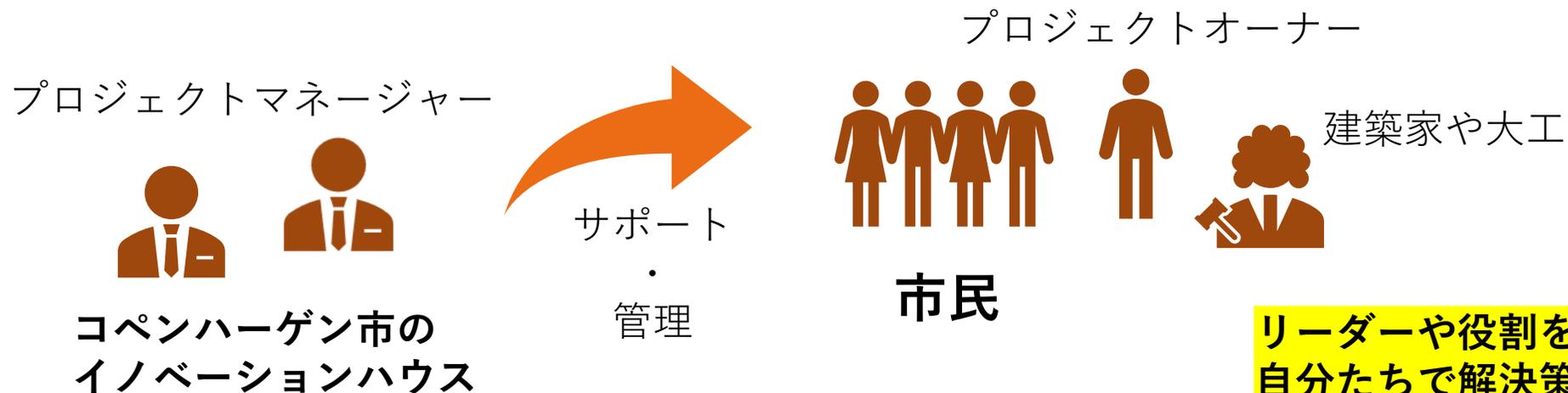


コペンハーゲンの水害対策

- ・あるアパートの市民が、自治体（イノベーションハウス）のサポートを得て、自分たちで水害対策を考え、実行したプロジェクト
- ・実際に市民が提案したいくつかの案が採用された
(EX：アパートの中庭を有効活用し、そこで水が循環するような仕組みを作った)

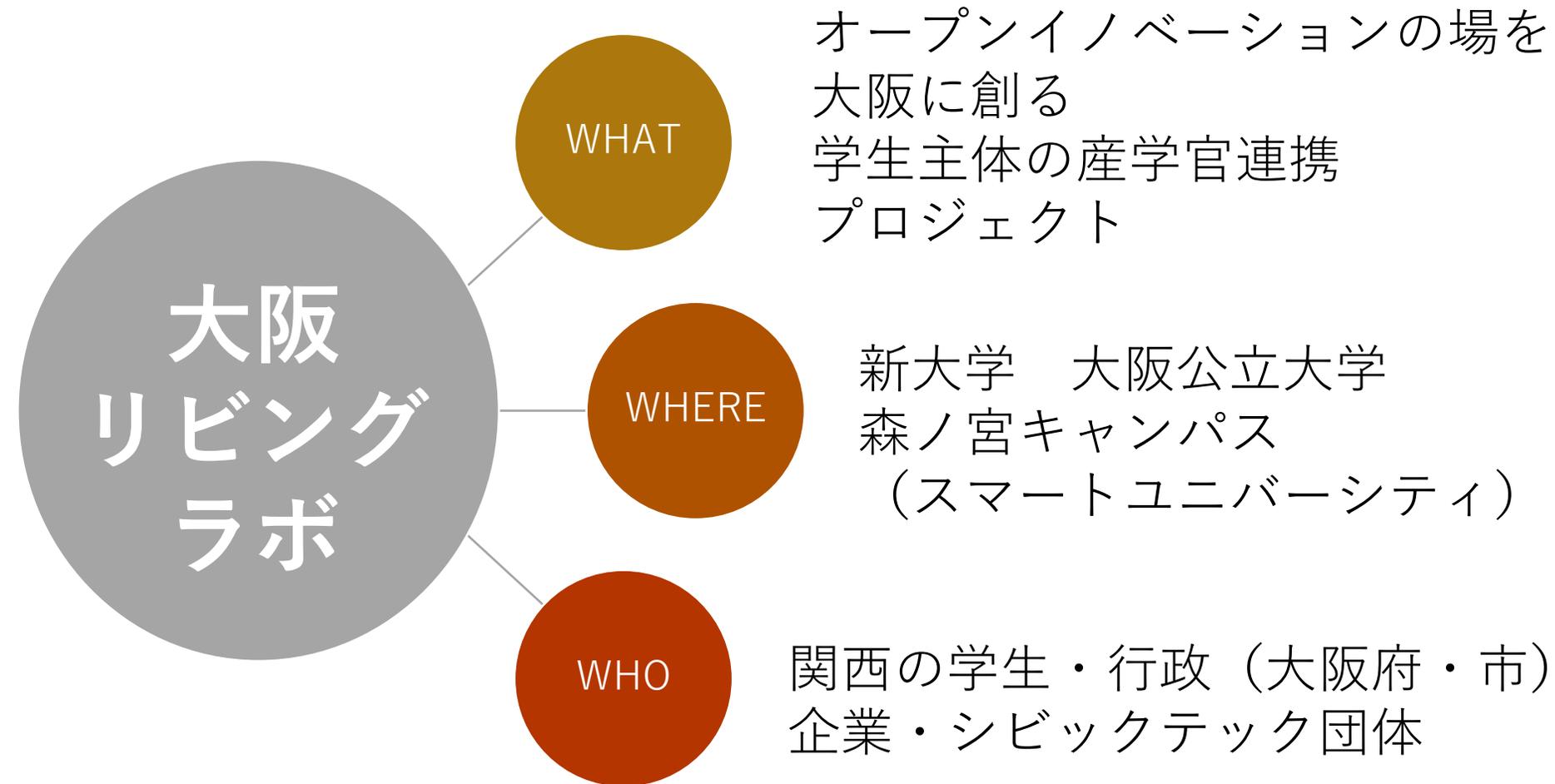


↑ 都市洪水に対応する貯水機能を持つ公園



リーダーや役割を自分たちで決め、自分たちで解決策を考えて実行する

解決策



新大学 大阪 公立大学

めざすのは大阪発、世界レベル “超”大学、始動。

2022年、大都市大阪を牽引してきた2大学が融合し、新たな公立大学が誕生。

大阪公立大学(仮称)は、従来の学問の枠組みにとらわれない世界レベルの

高度研究型大学として、大都市大阪の発展に貢献する「知」の拠点を目指します。

地域から信頼される大学として、産学連携を推進しながら

健康や防災、環境、人権など、複合的な都市の課題解決に

総合大学ならではの知で挑みます。

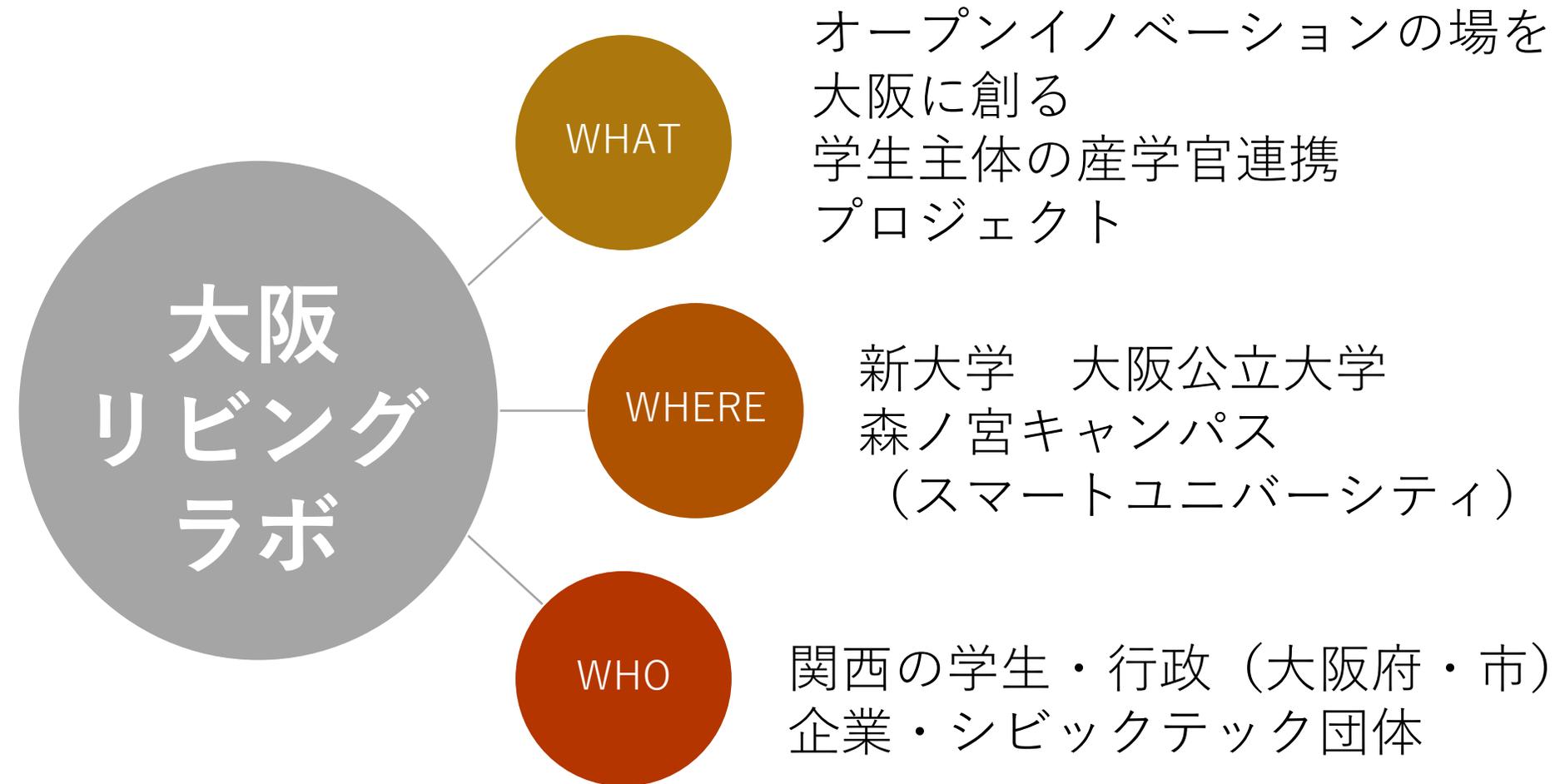
成長する未来都市大阪で、ともに、これまでの大学を超えていきましょう。

大阪公立大学の
パンフレットより抜粋

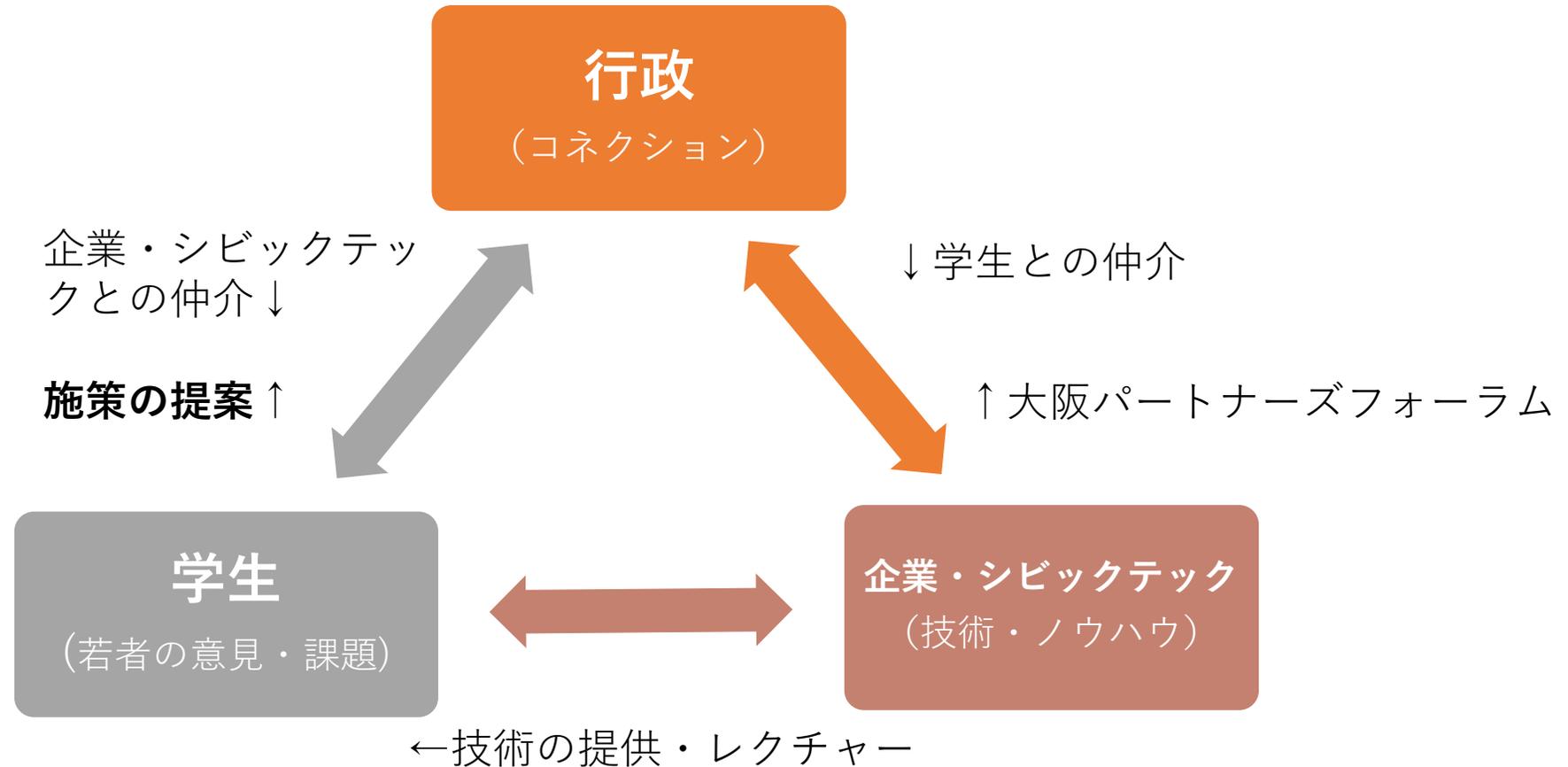
大阪公立大学 (仮称)
University of Osaka (tentative name)



解決策



大阪リビングラボ@大阪公立大学



共同プロジェクト@大阪公立大学

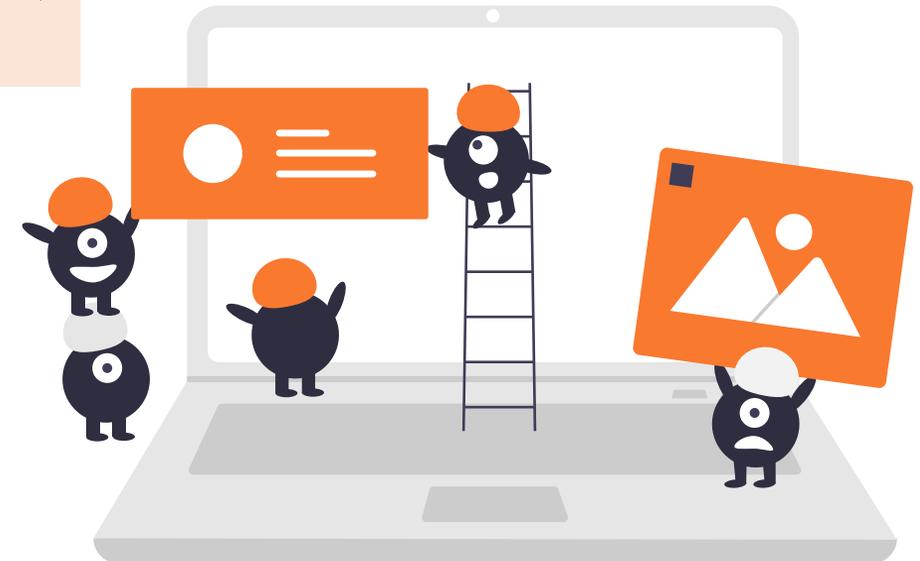
シビックテック

Civic (市民) × Tech (技術)

地域や公共の問題は、行政・公共団体が対処すべき
税金を払う住民は、これをサービスとして受けるのが当たり前

「私たち（住民・一般市民）も地域の問題と向き合い、
持っているスキル・ノウハウで解決していこう」

代表的な団体：
一般社団法人 Code for Japan



大阪リビングラボの流れ

抽出

- 学生が大阪で感じている不満・意見を発散

議論

- 学生同士で整理し解決策を話し合う（専門的なところは教授に教えてもらう）

検討

- 実際に世の中で使えるものかを検討し、行政に企業とのマッチングをお願いする

協働

- 企業やシビックテックに技術を提供・レクチャーしてもらい実際に形にしていく

実験

- まずは実験場として大学で検証

提案

- 行政にプロジェクトの完成形をスマートシティ施策として提案

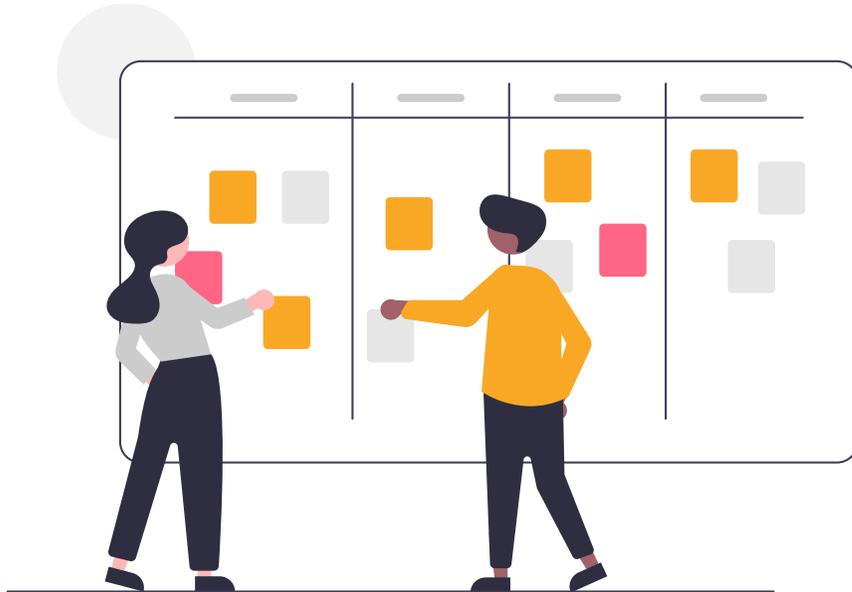
適用

- 採用されたら社会で実際に適用される

学生の集め方・議論の方法

掲示板

大阪リビングラボの開催を告知する。



アイデアソン

多様性を持った多くのメンバーでディスカッションを行う



あしたのコミュニティーラボの記事
<https://www.ashita-lab.jp/special/7748/>より引用

協働の方法

ハッカソン



<https://www.sejuku.net/blog/6829>より引用

ヤフーが開催しているハッカソンの様子



Open Hack Day Japan 2
<https://hackday.jp/2014/>より引用

実験

スマートシティの実証・実装フィールド

- ・ 大学は若者が多く集まり、日常生活の場でもあることから未来の社会実験の場として最適
- ・ 新大学の周辺地域は観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、多世代多様な人が集い、交流する国際色あるまちになることが想定されており、新大学はその先導役となる

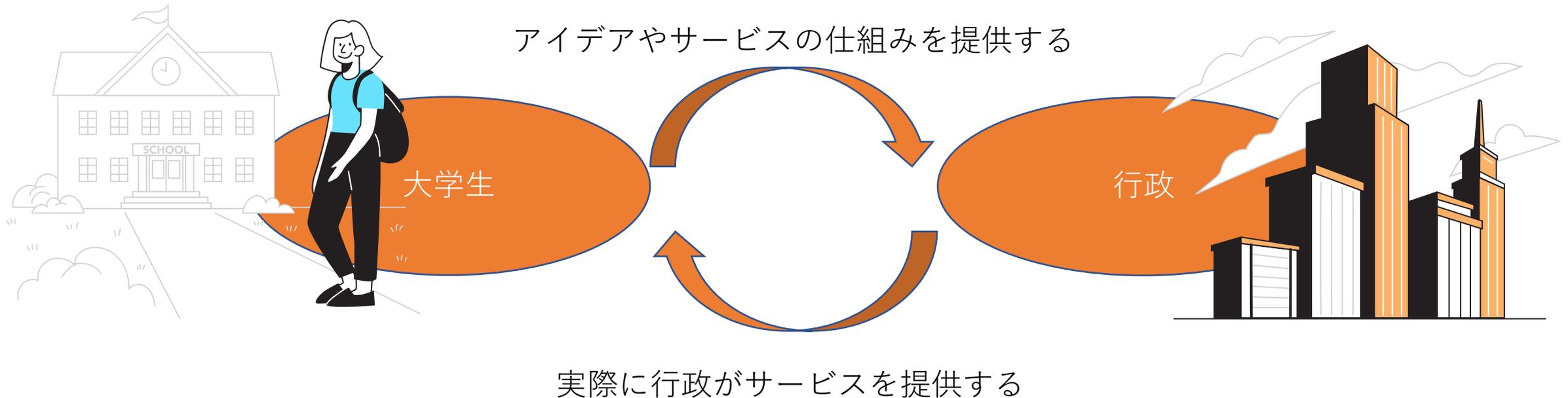


「大阪城東部地区」のまちづくりの方向性(素案)〈概要〉より引用

提案・実装

最終的に**行政に提案し、**

予算化をして長期的に**サービスを提供してもらう**ことをこの政策の目標とする。



学生が持つ具体的な課題例

- 大学の学術情報総合センターの空席状況（自習室など）、パソコンの使用状況が分からない
- 食堂、大学周辺の飲食店の混み具合が分からない
- 教室、部活の場所取り術がアナログ（対面での話し合い）
- 郊外や地方の交通の不便さ（バス・車の送迎）
- 他大学の人、社会人など大学外の人と関わる機会が少ない
- 英語を話す機会が少ない（英語力が低い）
- オンライン授業でのコミュニケーションの難しさ
- 学校内の移動手段
- 放置自転車の問題





VACAN

VACAN Maps

スマートフォンの地図上にお店や施設の「空き」「混雑」の情報をリアルタイム配信。ジャンル問わずあらゆる場所でお使いいただけます。

詳しくはこちら

具合がわからない

をお願いする

協働

• 空き情報をマップ

実験

• まずは実験場として

提案

• 行政にプロジェクト

適用

• 採用されたら社会で



AiS

VACAN AIS (アイズ)

カメラ等の機器とAIの力で、施設内の混雑状況を自動で検知し、サイネージや特設webページなどに表示します。

詳しくはこちら

目次



現状分析

スマートシティ概要

中間報告の振り返り

ヒアリング

@スマートシティ戦略部



提案

新たな課題発見

参考事例

(デンマーク)

提案内容

(詳細・新規/独自性)



最後に

効果について

独自性について

私達の思い

効果について

大阪にとってのメリット

- 大阪のスマートシティ戦略の主目的である
地域住民により寄り添ったスマートシティを創れる。
- **若者の声**が抽出できるうえに、**若者が考える解決策**についても知ることができる。
- 若者目線のスマートシティ政策を実現できることで、
若者にとって魅力的な都市として、若い世代を誘致できるようになる
- IT関連産業の発展と雇用の促進につながり、**関係人口が増加**する。
- 海外の大学との連携により、**世界に向けて**大阪のスマートシティがアピールできる。

効果について

学生にとっての メリット

- 学生は実際のビジネスに近いものを体験し、**スキル**を学べる。大学生が**人脈**をつくる場にもなる。

企業にとっての メリット

- 企業は大学というコミュニティの中で技術やシステムの**社会実験**を行える。インターンシップのように**人材発掘**の場として利用することができる。

シビックテックにとっての メリット

- シビックテック団体は、大学生へ社会貢献活動の有益性を知ってもらい、**将来的な人材確保**にもつながる。

独自性について

～日本国内の既存事例との比較～

	大阪公立大学 「大阪リビングラボ」	東京大学 「①地域共創ラボ」 「②国際連携型 リビングラボ」	信州大学 「信州リビングラボ」
共通点	大学キャンパスをプラットフォームとした産学官連携プロジェクト		
課題抽出対象者	若者（主に大学生）	①全国の地域 （東京に限らない） ②高齢者（鎌倉）	市民 （世代や所属を限定しないけど高齢者多い？）
主なカテゴリーと事例	大学生が抱える問題 （大阪府内・大学内） 「若者に注力している」 という点で独自性あり！	①地域が抱える問題 （主に研究交流など） ②高齢社会で見えてくる 問題 「長寿社会はイノベーションの宝庫」	健康分野「ex)在宅医療×モノづくり」と 防災分野「ex)メディア×防災減災」の 二本柱

私たちの思い

「大阪リビングラボ」を一つの手段として
若者の意見も抽出・実装することで
幅広い世代の声が反映し
多くの人に愛され、関西・日本・世界を牽引する
持続的で魅力的な「大阪」へ

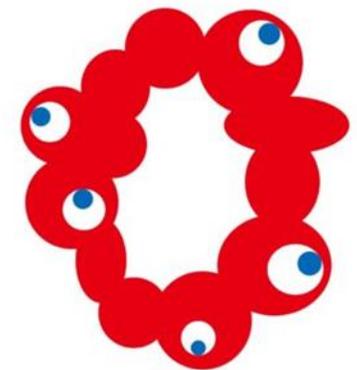
ご清聴ありがとうございました

参考文献

- ・大阪公立大学HP <https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/>
- ・大阪府スマートシティ戦略 <http://www.pref.osaka.lg.jp/it-suishin/sc/index.html>
- ・「大阪城東部地区」のまちづくりの方向性(素案) <https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/cmsfiles/contents/0000370/370124/05houkouseisoan.pdf>
- ・スマートシティインデックスの記事 https://www.yamatogokoro.jp/inbound_data/40980/
- ・コペンハーゲンについて <https://note.com/japanordic/n/n24c45c6b1161>
<https://youtu.be/C4xOI644cfc>
<https://ideasforgood.jp/2020/11/24/tredje-nature/>
- ・リビングラボについて <https://coelog.chuden.jp/community/02/>
- ・ハッカソンについて <https://www.seiuku.net/blog/6829>
- ・シビックテックについて https://project.nikkeibp.co.jp/mirakoto/atcl/mirai/h_vol73/
- ・株式会社VACANについて <https://corp.vacan.com/>
- ・東京大学リビングラボ <https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/fsi016.html>
- ・信州大学リビングラボ <https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/>

ヒアリング訪問先

- ・大阪府庁スマートシティ戦略部様
- ・大阪市立大学工学部電気情報工学科 阿多信吾教授



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025